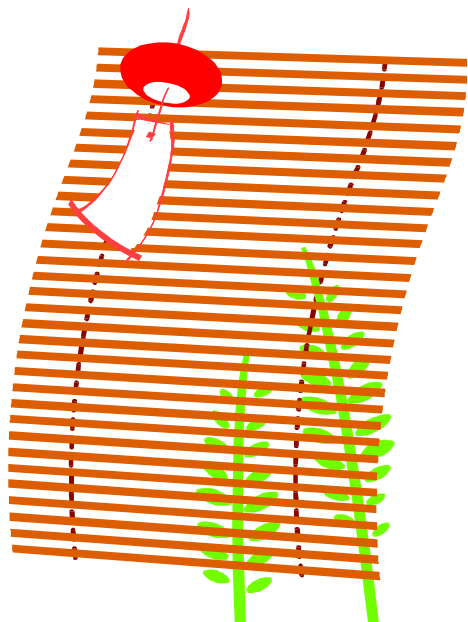


広報 ちゅうざん

9月号

2006.9.1 発行



9月号 目次

リハビリを楽しむ方法 (2頁)

失語症とは? (3頁)

酢は、すごい! 夏バテ・夏の疲れを乗り切るパワー (4頁)

院内研究発表会 (5頁)

ゆい沖縄交流会 (6頁)

平成18年7月の入退院状況 (6頁)

リハビリを楽しむ方法

ちゅうざん病院 理事長/院長 今村 義典

残暑厳しい中「第12回ちゅうざん病院院内研究発表会」が、8月20日病院5階の多目的ホールで院内外の約200名の方の参加のもとで開催されました。

12年目を迎えますと、リハビリに関わる自主性も育ち院内の問題点が良く反映された調査研究が発表され、大変参考になりました。

リハビリ治療の際に、入院中の患者さんの中には意欲が無く訓練に乗らない患者さんの事が問題になることがあります。何故でしょうか？きつい、痛い、難儀で面白くないなどと、訓練を避ける原因となることがあるようです。

では、面白くする方法はあるのでしょうか？2B病棟の発表に「男性患者の余暇活動について考える 脱ベッド上寝たきり生活」という発表がされました。囲碁や将棋等の趣向性の高いメニューを採用することで離床やリハビリ参加に成功した報告でありました。

似たようなことを、先月も触れました遠藤周作が患者の経験から次のように触れていました。昔、胸の手術を受けた際、腕が上がらなくなるのを防ぐためにリハビリを命じられたが訓練が痛いのでリハビリをサボって、大部屋で他の患者さんと毎日花札のコイコイをやるのに夢中になり、痛いのも気にせず腕を動かしていた結果、リハビリをサボりにサボった自分の関節に拘縮も起らず看護婦を驚かしたと、苦しい訓練を真面目にやることを、医療者側はリハビリと考えているが、苦しいことは楽しみながらやったほうがよい。つまり「楽しみ」によって苦痛を克服できるといっています。

反面、外来通院の患者さんの中には、何年もリハビリと通っている患者さんが居ます。私たちから見ると病院人生になってしまって好いのかと疑問を感じます。

今年の診療報酬・医療改正でリハビリ治療の9月末までの制限は社会問題にさえなっています。私は良い機会だと考えています。病院で行うのだけがリハビリではありません。近くのデパートや大きなスーパーに行きますと、大抵、手すりのついた階段があります。大抵のお客さんはエスカレーターやエレベーターを利用し階段は殆ど人が居ないガラガラの状態です。ゆっくりと階段の昇降訓練をし、昼になればレストランで沖縄ソバを食べ、おやつにはぜんざいを食べ一日を楽しんでも病院に支払う料金より安くすみ、病院の20分程度の運動量よりも数倍の運動をしています。また地域の人々と同じ環境で過ごす社会参加にも慣れてきます。リハビリテーションの目標は、身体の機能回復が最終目標でなく住みなれた地域社会への社会参加であります。

失語症とは?

リハビリテーション部 鈴木知詩 (ST)

ちゅうざん病院言語療法室の言語聴覚士 (speech therapist : ST) は、脳血管障害などによって起こるコミュニケーションの障害や嚥下障害を持つ方を対象に、障害の程度の評価、コミュニケーションを取り易くする訓練、安全に食べるための訓練や指導を行っています。その他、入院患者さんだけでなく一般の方からの相談を受けることもあります。

今回はコミュニケーション障害の一つである失語症についてお話したいと思います。

失語症とは!?

失語症は、脳血管障害などによって、大脳の言語中枢という、ことばを司る部分が損傷された場合に起こります。

聞く、話す、読む、書く、などことばに関わる機能が低下します。

障害の種類や程度は、損傷が起こった部分や、その損傷の大きさによって様々です。障害の種類では、理解することは比較的良いが話しづらくなるタイプや、話しは流暢にするが内容が伝わりにくく、理解もあまり良くないタイプなどがあります。また障害の重さは個人差が大きいです。

患者さんとの接し方

失語症の患者さんは言葉が不自由ではありますが、精神的にしっかりしていることが多いので子供あつかいされると傷ついたり腹を立てたりします。発症前と変わらない態度で接するように心がけてみて下さい。

挨拶や簡単な受け答えができたとしても、普段どおりに話しかけてしまうと途中から理解できなくなってしまい、反応があいまいになってくることがあります。患者さんが理解しやすいように短い文や単語で話しかけるようにして下さい。

こちらの問いかけに対し何度も聞き返してることがあります。その時は大声を出すのではなく、身振り・文字・物品・写真などを見せながら話しかけると上手く伝わるがあります。また、問いかけをうなずきやはい、いいえで答えられるものになると会話がしやすくなるがあります。

スムーズに会話できているような時でも、急に話題を変えると話についていけないことがあります。そのため、一つのことが理解されたことを確認してから次のことへ進み、急に話題を変えるのは避けましょう。

以上、失語症の説明と失語症患者さんとの接し方の例を挙げてみました。

もっと失語症やその他の言語障害について知りたい方は気軽に言語聴覚士 (ST) に声をかけて下さい。

夏バテ・夏の疲れを乗り切るパワー

酢は、スゴイ！！

薬剤師 眞喜志 泉

< 発酵パワー満載の人類最古の調味料 >

酢は、納豆や味噌、しょうゆなどと同じように、原料を発酵させて作る発酵食品のひとつ。発酵食品は、腸内の善玉菌を育てて腸の働きを整えるなど、健康維持にとっても役立ちます。

< クエン酸回路が疲労回復のカギ >

私たちの体は、細胞の中で常にエネルギーを生み出しています。このエネルギーを作る仕組みがうまくいかないと、疲労感が強くなります。その仕組みの中心となるのが、クエン酸回路 です。酢に含まれるクエン酸も酢酸もクエン酸回路に入って、エネルギーに変えられます。クエン酸や酢酸を採ると、血液が流れやすくなります。クエン酸回路が、よく回るとエネルギーが再生されやすくなり疲れが回復します。

< 3つの酢のスゴイパワー >

- * 黒麹もろみ酢・・・(クエン酸をたっぷり含み、さらさら効果にも期待) 泡盛の製造過程でできるもろみ酢からつくられる。クエン酸のほか、アミノ酸やミネラルも豊富で、9種類の必須アミノ酸も含め全部で18種類ものアミノ酸が含まれています。
- * 梅酢・・・・・・(クエン酸に加え、リンゴ酸やポリフェノールも豊富) 完熟した梅は、青梅の約2倍のクエン酸を含みます。
- * 発芽玄米酢・・・・(GABAなど、発芽玄米の成分を含む) 白米や玄米よりもビタミンやミネラルなどの栄養価が高い。

あなたの 夏バテ対策に 酢を 活用しませんか？

参考文献 「元気生活 7月号」

第12回院内研究発表会

教育委員会 ブラウン章子

当院では日頃から全職員が病院の基本方針にあるように、「患者様のための病院」「地域に開かれた病院づくり」「生涯学習に努めよう」と病院の質向上を目指して業務、研究に取り組んでいます。

今年は新病院に移転して初めての院内研究発表会であり『今、もとめられる医療 - リハビリテーション医療の専門性と今後の展望 -』をテーマに17演題が発表されました。

入院から退院、社会復帰までの包括的な医療を目指した発表で、新病院での患者満足度調査、職員の意識調査、日頃実施している離床訓練の成果、在宅・社会復帰に向けてのサポート効果などの研究発表でした。院外からも多くの皆様に参加していただき、参加者の関心も高く活発な質疑・応答が行われとても充実した研究発表会でした。

これからも、もとめられる医療、より質の高い医療・介護を目指し職員一同研鑽していきたいと思えます。



ゆい沖縄交流会☆

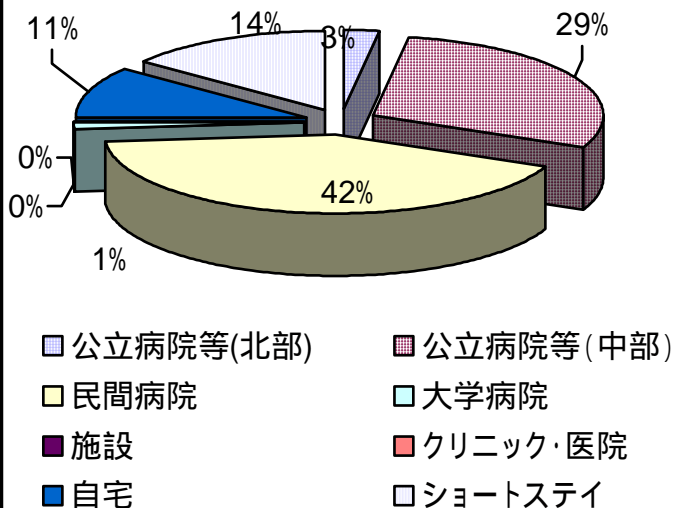
リハビリテーション部 安里優子（臨床心理士）

平成 18 年 7 月 29 日（土）午後より、南城市（旧佐敷町）あざまサンサンビーチにて「ゆい沖縄」主催による交流会がありました。「ゆい沖縄（会長宮城末子さん）」は、脳損傷友の会として当事者やそのご家族によって平成 17 年 11 月に発足されました。今回、あざまサンサンビーチでの催しに参加した人数は、会員やゆい沖縄の活動に賛同されているボランティアを含め総勢 50 名でした。晴天に恵まれた当日、参加者は海水浴や水上ポート、すいか割りやビーチバレーなどを楽しみました。また、日ごろのリハビリや、お仕事、ご家庭の様子を語り合い充実した時間を過ごすことができました。今回の行事運営にご協力・ご賛同頂いたみなさま方どうもありがとうございました。

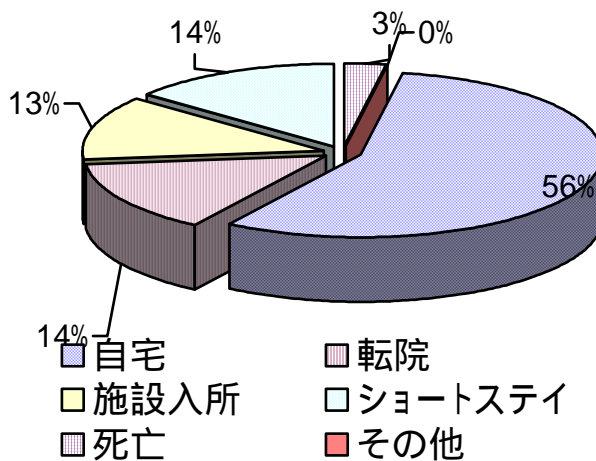
「ゆい沖縄」は毎月定例会も行っていきます。
お問い合わせは当院心理室まで …

【平成 18 年 7 月入退院状況】

【入院患者数：76名】



【退院者数：71名】



広報 ちゅうざん（2006年 第9号） 発行：ちゅうざん病院 広報委員会
2006年9月1日発行（毎月1回1日発行）

編集委員：鈴木知詩